

三ヶ山公園墓地の昆虫（2023-2024 年度調査）

岩崎 拓

CB 大阪 : 〒590-0143 大阪府堺市南区新檜尾台 3 丁 1-3-504

Insects recorded at Mikayama Park Cemetery in 2023-2024

Taku IWASAKI

CB-Osaka : 3-1-3-504 Shinhinoodai, Minami, Sakai, Osaka 590-0143, Japan

Abstract : Insect surveys were conducted to describe the fauna at Mikayama Park Cemetery, located in the hilly area of Kaizuka City, Osaka Prefecture, in fiscal years of 2023-2024, and the results obtained were reported by insect order in this paper. The survey area was consisted of a garden, an artificial garden pond, a ball field, tennis courts, and a cemetery. The office was located at 34.4060 degrees north latitude, 135.4012 degrees east longitude, and ca. 140 meters above sea level. Insects observed or recognized by singing were recorded in a certain route of ca. 90-minutes daytime walk, once a month from April to March in both fiscal 2023 and 2024, and over 200 species were identified in both fiscal years. The threatened species selected in the Osaka Prefecture Red List observed were the damselfly, *Ceriagrion nipponicum*, the red dragonflies, *Sympetrum pedemontanum elatum*, and *S. parvulum*, and the cricket, *Velarifictorus grylloides*. Out of some alien species observed, identification of the exotic mantidfly, *Necyla* sp., had been only a few records in Osaka Prefecture.

Key words : insect, fauna, threatened species, alien species, Kaizuka City

はじめに

貝塚市三ヶ山にある市営公園墓地の駐車場からグラウンドおよびテニスコート側（北側）を見ると、手前にコンクリート打ちの庭池があり、オオキンケイギク、テンニンギク、ムシトリナデシコ、タカサゴユリなどの派手な外来植物が競うように生え、その向こうのグラウンドの一辺にはヒマラヤスギが植えられている。植栽の木本はカイヅカイブキ、アベリア、ユキヤナギ、アメリカハナミズキ、キンシバイなどもあり、外来植物はほかに、ホソバウンラン、ユウゲショウ、オオキバナカタバミ、シロバナマンテマなども生え、かなり人工的な環境と言える（図 1）。



図 1. 貝塚市営三ヶ山公園墓地の景観
2023. 6. 3

以前からこの場所を起点に周辺地域において散発的な採集を行ってきたが、2023 年 4 月から月に 1 回のペースで公園墓地内において定期的に調査を行うことにした。今回は、2025 年 3 月までの 2 年間の調査結果を報告する。

調査方法

2023 年 4 月から 2025 年 3 月にかけて、毎月 1 回、雨でない日を選んで昆虫調査を行った。貝塚市三ヶ山にある市営公園墓地内には、植栽（庭園・花壇）、庭池、グラウンド、テニスコート、展望台、墓地などがあり、調査範囲は北緯 34.408720～34.405206、東経 135.399896～135.402631、標高 130～165mの間にある。その中を約 1 時間半かけて歩きながら、昆虫および他の動植物の記録を取った。目視で同定可能な種は記録するか写真撮影に留め、同定が困難な種や貝塚市立自然遊学館（以下、自然遊学館）に標本のないか少ない種を採集し、自然遊学館の所蔵標本とした。また、可能な場合には鳴き声による確認も行った。ただし、グラウンドがゲートボール、野球、その他の競技により使用されている場合、あるいは草刈りが行われている場合は、それらの場所を避けて調査を行ったので、本調査の定量性は低いものである。

結果および考察

2023 年と 2024 年の調査で確認された昆虫を、大阪府レッドリスト種や自然遊学館に標本がないか少ない種、外来種等に関して、それぞれの目ごとに結果を示した。本文中の表記では、年月のみを使用した。各月の調査日に関しては表 1～11 を参照のこと。また、調査日以外に当地を訪れた際に確認した種に関しては、最後にまとめて報告を行った。

トンボ目

2023 年は 14 種が確認された（表 1）。大阪府レッドリスト種（大阪府、2014）としては、準絶滅危惧のミヤマアカネ（図 2）が 2023 年 9 月に、ヒメアカネ（図 3）が同年 11 月に確認された。アカネ類はその他、同年 9 月にリスアカネ、11 月にマユタテアカネが確認された。

2024 年は 15 種が確認され（表 2）、大阪府レッドリスト種は 2024 年 7 月に確認された準絶滅危惧のベニイトトンボのみであった（図 4）。アカネ類としては、同年 11 月にマユタテアカネ、10 月と 11 月にリスアカネ、および 9 月にコノシメトンボが確認された。

なお、14 種と 15 種という種数は、貝塚市内で里山的景観を残している代表的な場所である「せんごくの杜」において、毎月 1 回の割合で調査した年の出現種数とほぼ同じ値である（たとえば、2011 年～2021 年の平均値種数は 15.2：岩崎、2024）。

以上にあげた種のほとんどは抽水植物が生えていない庭池で確認されたものではなく、庭池ではアオイトトンボ類、クロイトトンボ、ギンヤンマ、シオカラトンボ類、ショウジョウトンボ、コシアキトンボをはじめ、いわゆる普通種の確認が大半を占め、調査日によっては、クロイトトンボやギンヤンマが水辺から倒れたアレチヌスビトハギなどの茎に産卵する様子が観察された。



図2. ミヤマアカネ
2023. 9. 9



図3. ヒメアカネ
2023. 11. 2



図4. ベニイトトンボ
2024. 7. 2

表1. 三ヶ山（貝塚市営公園墓地）において2023年4月から12月にかけて確認されたトンボ目

「○」印は成虫での確認を示す。2024年1月から3月にかけては確認されなかった。

科	種	学名	調査日	4月 27日	5月 8日	6月 3日	7月 6日	8月 3日	9月 9日	10月 5日	11月 2日	12月 2日
アオイイトトンボ科	アオイイトトンボ	<i>Lestes sponsa</i>								○		
	オオアオイイトトンボ	<i>Lestes temporalis</i>							○		○	
イトトンボ科	クロイトトンボ	<i>Paracercion calamarum calamarum</i>						○				
サナエイトトンボ科	オグマサナエ	<i>Trigomphus ogumai</i>		○								
ヤンマ科	ギンヤンマ	<i>Anax parthenope julius</i>					○		○			
トンボ科	シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>				○	○	○	○			
	オオシオカラトンボ	<i>Orthetrum melania melania</i>				○			○			
	ショウジョウトンボ	<i>Crocothemis servilia mariannae</i>					○					
	ミヤマアカネ	<i>Sympetrum pedemontanum elatum</i>							○			
	リスアカネ	<i>Sympetrum risi risi</i>							○			
	マユタテアカネ	<i>Sympetrum eroticum eroticum</i>										○
	ヒメアカネ	<i>Sympetrum parvulum</i>										○
	コシアキトンボ	<i>Pseudothemis zonata</i>				○	○	○				
	ウスバキトンボ	<i>Pantala flavescens</i>							○	○		

表2. 三ヶ山（貝塚市営公園墓地）において2024年4月から12月にかけて確認されたトンボ目

「○」印は成虫での確認を示す。2025年1月から3月にかけては確認されなかった。

科	種	学名	調査日	4月 5日	5月 3日	6月 4日	7月 2日	8月 5日	9月 2日	10月 2日	11月 4日	12月 10日
カワトンボ科	ハグロトンボ	<i>Calopteryx atrata</i>							○			
アオイイトトンボ科	オオアオイイトトンボ	<i>Lestes temporalis</i>										○
モノサシトンボ科	モノサシトンボ	<i>Copera annulata</i>					○	○				
イトトンボ科	ベニイトトンボ	<i>Ceriatagrion nipponicum</i>					○					
	クロイトトンボ	<i>Paracercion calamarum calamarum</i>			○	○						
ヤンマ科	ギンヤンマ	<i>Anax parthenope julius</i>						○	○	○		
トンボ科	シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>				○	○	○	○			
	シオヤトンボ	<i>Orthetrum japonicum</i>			○							
	オオシオカラトンボ	<i>Orthetrum melania melania</i>				○	○					
	ショウジョウトンボ	<i>Crocothemis servilia mariannae</i>				○	○			○		
	リスアカネ	<i>Sympetrum risi risi</i>								○	○	
	マユタテアカネ	<i>Sympetrum eroticum eroticum</i>									○	
	コノシメトンボ	<i>Sympetrum baccha matutinum</i>						○				
	チョウトンボ	<i>Rhyothemis fuliginosa</i>					○					
	コシアキトンボ	<i>Pseudothemis zonata</i>				○	○	○				
	ウスバキトンボ	<i>Pantala flavescens</i>					○		○	○		

バッタ目

2023年と2024年に確認されたバッタ目は、それぞれ26種と30種であった（表3、4）。大阪府レッドリスト種としては、ナツノツヅレサセコオロギが両年とも7月に鳴き声が確認された。代表的な鳴く虫であるマツムシは2023年11月、および2024年10月と11月に鳴き声が確認された。

表3. 三ヶ山（貝塚市営公園墓地）において2023年4月から12月にかけて確認されたバッタ目

「△」印は幼虫、「○」印は成虫での確認を示す。2024年1月から3月にかけては確認されなかった。

科	種	学名	調査日	4月 27日	5月 8日	6月 3日	7月 6日	8月 3日	9月 9日	10月 5日	11月 2日	12月 2日
キリギリス科	ヤブキリ	<i>Tettigonia orientalis</i>		△		△	○					
	キリギリス	<i>Gampsocleis buergeri</i>					○	○	○			
	ヒメギス	<i>Eobiana engelhardti subtropica</i>			△	△						
	ホシササキ	<i>Conocephalus maculatus</i>				△			○	○		
ツユムシ科	サトクダマキモドキ	<i>Holochlora japonica</i>				△						
	ヒメクダマキモドキ	<i>Holochlora macilenta</i>										○
コオロギ科	エンマコオロギ	<i>Teleogryllus emma</i>							○	○	○	
	ハラオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus campestris</i>							○	○		
	ミツカドコオロギ	<i>Loxoblemmus doenitzi</i>							○	○		
	ツヅレサセコオロギ	<i>Velarifictorus micado</i>							○	○		
	ナツノツヅレサセコオロギ	<i>Velarifictorus grylloides</i>					○					
マツムシ科	マツムシ	<i>Dionynus marmoratus</i>										○
	アオマツムシ	<i>Trujalia hibinonis</i>							○	○		
ヒバリモドキ科	クサヒバリ	<i>Sivistella bifasciata</i>							○	○	○	
	マダラスズ	<i>Dianemobius nigrofascatus</i>					○		○	○	○	
	シバズ	<i>Polionemobius mikado</i>								○		
カネタタキ科	カネタタキ	<i>Ornebius kanetataki</i>							○	○	○	
オンブバッタ科	アカハネオンブバッタ	<i>Atractomorpha sinensis sinensis</i>							○	○		
	オンブバッタ	<i>Atractomorpha lata</i>							○	○	○	
	オンブバッタ属	<i>Atractomorpha</i> sp.						△				
バッタ科	ツチイナゴ	<i>Patanga japonica</i>		○		○		△	△○	△○	○	
	ショウリョウバッタ	<i>Acrida cinerea</i>					△	○	○			
	ショウリョウバッタモドキ	<i>Gonista bicolor</i>						△	○		○	
	トノサマバッタ	<i>Locusta migratoria</i>			○					○		
	クルマバッタモドキ	<i>Oedaleus infernalis</i>				○	○			○		
	マダラバッタ	<i>Aiolopus thalassinus tamulus</i>							○	○		
	イボバッタ	<i>Trilophidia japonica</i>							○			

表4. 三ヶ山（貝塚市営公園墓地）において2024年4月から12月にかけて確認されたバッタ目

「△」印は幼虫、「○」印は成虫での確認を示す。2025年1月から3月にかけては確認されなかった。

科	種	学名	調査日	4月 5日	5月 3日	6月 4日	7月 2日	8月 5日	9月 2日	10月 2日	11月 4日	12月 10日
キリギリス科	ヤブキリ	<i>Tettigonia orientalis</i>		△		△	○					
	キリギリス	<i>Gampsocleis buergeri</i>			△	△	○	○				
	ヒメギス	<i>Eobiana engelhardti subtropica</i>					○					
	オナガササキ	<i>Conocephalus exemptus</i>										○
	ホシササキ	<i>Conocephalus maculatus</i>										○
ツユムシ科	サトクダマキモドキ	<i>Holochlora japonica</i>						○				
	ヤマクダマキモドキ	<i>Holochlora longifissa</i>				△						死体
	セスジツユムシ	<i>Ducetia japonica</i>								○	○	
コオロギ科	エンマコオロギ	<i>Teleogryllus emma</i>					△		○	○		
	ハラオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus campestris</i>							○	○	○	
	ミツカドコオロギ	<i>Loxoblemmus doenitzi</i>							○			
	コガタコオロギ	<i>Velarifictorus ornatus</i>					○					
	ツヅレサセコオロギ	<i>Velarifictorus micado</i>							○	○	○	
	ナツノツヅレサセコオロギ	<i>Velarifictorus grylloides</i>					○					
	マツムシ	<i>Dionynus marmoratus</i>								○	○	
マツムシ科	アオマツムシ	<i>Trujalia hibinonis</i>							○	○		
	キンヒバリ	<i>Natula matsurai</i>					○					
ヒバリモドキ科	カヤヒバリ	<i>Natula pallidula</i>		○			○					
	クサヒバリ	<i>Sivistella bifasciata</i>							○	○	○	
	マダラスズ	<i>Dianemobius nigrofascatus</i>					○		○	○	○	
	シバズ	<i>Polionemobius mikado</i>								○		
カネタタキ科	カネタタキ	<i>Ornebius kanetataki</i>								○	○	
オンブバッタ科	アカハネオンブバッタ	<i>Atractomorpha sinensis sinensis</i>					○		○			
	オンブバッタ	<i>Atractomorpha lata</i>									○	
	オンブバッタ属	<i>Atractomorpha</i> sp.			△	△		△				
バッタ科	ツチイナゴ	<i>Patanga japonica</i>			○		△	△	△	△○	△○	○
	ショウリョウバッタ	<i>Acrida cinerea</i>					△		○			
	ショウリョウバッタモドキ	<i>Gonista bicolor</i>							○	○		
	クルマバッタモドキ	<i>Oedaleus infernalis</i>					△	○	○	○		
	マダラバッタ	<i>Aiolopus thalassinus tamulus</i>						○	○		○	
	イボバッタ	<i>Trilophidia japonica</i>						○		○		

日中の調査なので、鳴いている個体数は少ないが、周辺の環境から判断して、マツムシの個体数は多いのかもしれない。

貝塚市内で確認例が少ない種としては、2023 年 11 月に 3 ♀が確認されたヒメクダマキモドキ（図 5）があげられる。自然遊学館には 2006 年の貝塚市大川産と 2008 年の二色（市民の森）産の個体が所蔵されているだけである。低茎草原の指標種であるショウリョウバッタモドキ（図 6）は、2023 年に 3 調査日、2024 年に 2 調査日で確認された。これはおそらくチガヤ群落がある程度の面積で存在することに起因するものと考えられる。オンブバッタ属は 2 種が共存し、年ごとの合計個体数では、2023 年がオンブバッタ 1♂3♀：アカハネオンブバッタ 2♂2♀、2024 年が 1♀：1♂2♀であった。



図 5. ヒメクダマキモドキ
2023. 11. 2



図 6. ショウリョウバッタモドキ幼虫
2023. 8. 3

カマキリ目

2023 年度と 2024 年度とも、オオカマキリとハラビロカマキリの 2 種が確認された（表 5、6：調査日以外に確認された昆虫の項を参照）。春先に行われるアベリアなどの生垣の剪定やそれに絡まったクズの除去によって、両種の卵囊とも撤去されるものが幾分か存在し、その分、幼虫と成虫の観察頻度が低く抑えられているものと推測された。ハラビロカマキリの卵囊数の方が多かったのは、ケヤキやサクラ類などの植栽木の幹に産下される分が残され、かつ幼虫と成虫が樹上で生息するからかもしれない。

表5. 三ヶ山（貝塚市営公園墓地）において2023年4月から12月にかけて確認されたカマキリ目

「△」印は幼虫、「♂」印はオス成虫、「♀」印はメス成虫での確認、および各印の後ろの数値は個体数を示す。
2024年1月から3月にかけては、幼虫と成虫は確認されず、2月2日の調査時にはオオカマキリ卵囊5個とハラビロカマキリ卵囊19個が確認された。

科	種	学名	調査日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
				27日	8日	3日	6日	3日	9日	5日	2日	2日
カマキリ科	オオカマキリ	<i>Tenodera aridifolia</i>					△1		♀1	♀1	♂1♀2	
	ハラビロカマキリ	<i>Hierodula patellifera</i>				△1	△1	△1	♀1		♀1	

表6. 三ヶ山（貝塚市営公園墓地）において2024年4月から12月にかけて確認されたカマキリ目

「△」印は幼虫、「♂」印はオス成虫、「♀」印はメス成虫での確認、および各印の後ろの数値は個体数を示す。
2025年1月から3月にかけては、幼虫と成虫は確認されず、2月7日の調査時にはオオカマキリ卵囊1個とハラビロカマキリ卵囊12個が確認された。

科	種	学名	調査日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
				5日	3日	4日	2日	5日	2日	2日	4日	10日
カマキリ科	オオカマキリ	<i>Tenodera aridifolia</i>				△2	△4	△1		♂1		
	ハラビロカマキリ	<i>Hierodula patellifera</i>				△3	△5	△2	♂1		♀1	

カメムシ目

セミ科は、2023 年、2024 年ともに同じ 5 種が確認された（表 7、8）。外来種のチュウゴクアミガサハゴロモは、2023 年の 3 調査日において確認され、特に 10 月は目撃個体数が 50 以上となった。翌 2024 年は 6 調査日で確認され、ベッコウハゴロモよりも圧倒的に優占していた。同じく外来種のクスベニヒラタカスミカメは、2023 年に 2 調査日、2024 年に 3 調査日で確認されたが、グラントが使用されていてクスの木に近づけない調査日があった結果なので、経年で生息していることは間違いない。他のカスミカメムシ科では、モンキクロカスミカメが 2023 年 6 月に確認された（図 7）。



図 7. モンキクロカスミカメ
2023. 6. 3

表 7. 三ヶ山（貝塚市営公園墓地）において2023年4月から12月にかけて確認された主なカメムシ目

「△」印は幼虫、「○」印は成虫での確認を示す。2024年1月から3月にかけての確認に関しては本文参照。

科	種	学名	調査日	4月 27日	5月 8日	6月 3日	7月 6日	8月 3日	9月 9日	10月 5日	11月 2日	12月 2日
セミ科	クマゼミ	<i>Cryptotympana facialis</i>					○	○				
	アブラゼミ	<i>Graptopsaltria nigrofuscata</i>						○				
	ミンミンゼミ	<i>Hyalessa maculaticollis</i>						○	○			
	ニイニイゼミ	<i>Platypleura kaempferi</i>					○	○				
	ツクツクボウシ	<i>Meimuna opalifera</i>							○			
ハゴロモ科	ベッコウハゴロモ	<i>Orosanga japonica</i>					○	○		○		
	チュウゴクアミガサハゴロモ	<i>Ricania shantungensis</i>							○	○	○	
カスミカメムシ科	モンキクロカスミカメ	<i>Deraeocoris ater</i>				○						
	クスベニヒラタカスミカメ	<i>Mansoniella cinnamomi</i>								○	○	
カメムシ科	クサギカメムシ	<i>Halyomorpha halys</i>					△				△	
	キマダラカメムシ	<i>Erthesina fullo</i>					△	○	△	○		
キンカメムシ科	チャイロカメムシ	<i>Philostephanus fulvus</i>				○						

表 8. 三ヶ山（貝塚市営公園墓地）において2024年4月から12月にかけて確認された主なカメムシ目

「△」印は幼虫、「○」印は成虫での確認を示す。2025年1月から3月にかけての確認に関しては本文参照。

科	種	学名	調査日	4月 5日	5月 3日	6月 4日	7月 2日	8月 5日	9月 2日	10月 2日	11月 4日	12月 10日
セミ科	クマゼミ	<i>Cryptotympana facialis</i>						○				
	アブラゼミ	<i>Graptopsaltria nigrofuscata</i>						○	○			
	ミンミンゼミ	<i>Hyalessa maculaticollis</i>							○			
	ニイニイゼミ	<i>Platypleura kaempferi</i>						○				
	ツクツクボウシ	<i>Meimuna opalifera</i>							○	○		
ハゴロモ科	ベッコウハゴロモ	<i>Orosanga japonica</i>						○				
	チュウゴクアミガサハゴロモ	<i>Ricania shantungensis</i>				△	○	○	○	○	○	
カスミカメムシ科	クスベニヒラタカスミカメ	<i>Mansoniella cinnamomi</i>							○	○	○	
	エビイロカメムシ	<i>Gonopsis affinis</i>					○		○			
カメムシ科	クサギカメムシ	<i>Halyomorpha halys</i>				○						
	キマダラカメムシ	<i>Erthesina fullo</i>				○		△○	△○	○		
	ツヤアオカメムシ	<i>Glaucias subpunctatus</i>				○	○					
	チャバネアオカメムシ	<i>Plautia crossota stali</i>			○	○						
	ウスラカメムシ	<i>Aelia fieberi</i>					○					

国内外来種でグラントのケヤキの樹幹でよく見られるキマダラカメムシは、グラント外でのサクラ類やトイレなどの人工建造物の壁などでも見られるため、クスベニヒラタカスミカメよりも確認された調査日が多くなっている。

チガヤ群落では、2023 年 6 月にチャイロカメムシ、2024 年 7 月と 9 月にエビイロカメムシが確認された。最近、個体数の増加が話題になっているツヤアオカメムシやチャバネアオカメムシは、それぞれの確認日において 1～2 個体に留まっている。

その他、2024 年 1 月と 2 月および 2025 年の 2 月にケヤキの樹皮の隙間において、冬越ししているクロハナカメムシが確認された。

コウチュウ目

たとえば貝塚市のせんごくの杜と比較すると、カナブン、コアオハナムグリ、クズノチビタマムシ、ジョウカイボン、セボシジョウカイ、ニセキベリコバネジョウカイ、ナナホシテントウ、ナミテントウ、ヒメカメノコテントウ、キマワリ、モモブトカミキリモドキ、ウリハムシ、クロウリハムシ、ヨモギハムシ、ヒメクロオトシブミ、オジロアシナガゾウムシなどの普通種を見る頻度に大きな差はなかった。ヒラタハナムグリ、クシコメツキ、タマムシやゴマダラカミキリも確認日は少ないながらも大きな差がないことは同じである。ただ、クズ上でマメコガネよりもコフキゾウムシを見る頻度が非常に高いことが本調査地の特徴的であった（コフキゾウムシの確認日は 2023 年 5 月、6 月、7 月、および 2024 年 5 月、6 月、7 月、8 月）。

サクラ類は、たとえば貝塚市の水間公園と比べると若い木が多く、チビクワガタは 2024 年 7 月にサトザクラに張られたクモの巣に絡まっている 1 個体が確認されたただであった。クビアカツヤカミキリのフラスも疑わしいものが 1 個所あったが、確信は持てないものであった。

グランドの南側の 2 個所にベンチがあり、隙間がある屋根（パーゴラ）の棧にクマバチ類が巣穴を作っている。そのベンチ上において、2023 年 7 月にヒラズゲンセイが確認された（図 8）。クマバチ類の巣穴の数からすれば 2 年間で 1 個体の確認は少ないかもしれない。



図 8. ヒラズゲンセイ
2023. 7. 6

別の特徴としては、グランドのケヤキの樹幹の隙間で冬越しする種で、2023 年度のリスト（表 9）のうち、トビイロマルハナノミ、外来種のモンクチビルテントウ、ヤドリノミゾウムシは個体数が多かった（2025 年も同様）。このうちモンクチビルテントウとヤドリノミゾウムシは、自然遊学館に標本がなかった種である。

表9. 三ヶ山（貝塚市営公園墓地）において2024年1月から3月にかけて確認された主なコウチュウ目

「○」印は成虫での確認を示す。

科	種	学名	調査日	1月 9日	2月 2日	3月 11日
マルハナノミ科	トビイロマルハナノミ	<i>Scirtes japonicus</i>		○	○	
テントウムシ科	ナミテントウ	<i>Harmonia axyridis</i>				○
	モンクチビルテントウ	<i>Platynaspidius maculosus</i>			○	○
ゾウムシ科	ヤドリノミゾウムシ	<i>Orchestes hustachei</i>		○	○	○

チョウ目

チョウ類は 2023 年の 9 回の調査において成虫 28 種、2024 年の 9 回の調査において成虫 27 種とゴマダラチョウの幼虫（合計 28 種）が確認された（表 10、11：その他、2024 年 1 月にテングチョウ、2024 年 3 月にキタテハとツバメシジミが確認され、2025 年 1 月と 2 月にゴマダラチョウの幼虫が確認された）。4 月から 12 月までの 9 回の調査で確認された 28 種と 27 種という値は、大阪府レッドリスト種や希少種が含まれないものの、貝塚市のせんごくの杜における調査とそれほど大きな差はない（岩崎、2024 など）。図 9 のホシミスジは、アベリアの生垣に絡みついたクズに止まっていたものである。



図 9. ホシミスジ

2024. 6. 4

表 10. 三ヶ山（貝塚市営公園墓地）において2023年4月から12月にかけて確認されたチョウ類

「○」印は成虫での確認を示す。2024年1月から3月にかけての確認に関しては本文参照。

科	種	学名	調査日	4月 27日	5月 8日	6月 3日	7月 6日	8月 3日	9月 9日	10月 5日	11月 2日	12月 2日
アゲハチョウ科	ナミアゲハ	<i>Papilio xuthus</i>		○			○	○	○			
	キアゲハ	<i>Papilio machaon</i>				○						
	クロアゲハ	<i>Papilio protenor</i>					○					
シロチョウ科	モンシロチョウ	<i>Pieris rapae crucivora</i>		○		○	○	○				
	スジグロシロチョウ	<i>Pieris melete</i>					○					
	キタキチョウ	<i>Eurema mandarina</i>		○		○	○	○			○	
タテハチョウ科	モンキチョウ	<i>Colias erate poliographus</i>				○						
	ヒメウラナミシヤノメ	<i>Ypthima argus</i>		○	○	○	○		○			
	ヒメジャノメ	<i>Mycalesis gotama</i>				○						
	クロヒカゲ	<i>Lethe diana</i>		○			○					
	サトキマダラヒカゲ	<i>Neope goschkevitschii</i>		○			○	○	○			
	ヒカゲチョウ	<i>Lethe sicelis</i>					○					
	コミスジ	<i>Neptis sappho intermedia</i>				○	○		○	○		
	キタテハ	<i>Polygonia c-aureum</i>		○		○	○				○	
	ルリタテハ	<i>Kaniska canace</i>							○			
	ツマグロヒョウモン	<i>Argyreus hyperbius hyperbius</i>							○	○	○	
	テングチョウ	<i>Libythea celtis celtoides</i>				○						
シジミチョウ科	ムラサキシジミ	<i>Narathura japonica</i>									○	
	ウラギンシジミ	<i>Curetis acuta paracuta</i>								○		
	ヤマトシジミ	<i>Zizeeria maha argia</i>						○	○			
	ウラナミシジミ	<i>Lampides boeticus</i>		○						○	○	
	ツバメシジミ	<i>Everes argiades hellotia</i>				○		○				
	ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus ladonides</i>							○			
	ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas daimio</i>		○		○				○		
セセリチョウ科	イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata guttata</i>							○			
	チャバネセセリ	<i>Pelopidas mathias</i>							○	○	○	
	ダイミョウセセリ	<i>Daimio tethys</i>						○	○			
	キマダラセセリ	<i>Potanthus flavus</i>						○				

表 11. 三ヶ山（貝塚市営公園墓地）において2024年4月から12月にかけて確認されたチョウ類

「△」印は幼虫、「○」印は成虫での確認を示す。2025年1月から3月にかけての確認に関しては本文参照。

科	種	学名	調査日	4月 5日	5月 3日	6月 4日	7月 2日	8月 5日	9月 2日	10月 2日	11月 4日	12月 10日
アゲハチョウ科	ナミアゲハ	<i>Papilio xuthus</i>			○				○	○		
	キアゲハ	<i>Papilio machaon</i>			○							
	クロアゲハ	<i>Papilio protenor</i>					○					
シロチョウ科	モンシロチョウ	<i>Pieris rapae crucivora</i>		○	○		○					
	キタキチョウ	<i>Eurema mandarina</i>		○	○					○	○	
	モンキチョウ	<i>Colias erate poliographus</i>			○	○						

表11 (つづき). ミケ山(貝塚市営公園墓地)において2024年4月から12月にかけて確認されたチョウ類

「△」印は幼虫、「○」印は成虫での確認を示す。2025年1月から3月にかけての確認に関しては本文参照。

科	種	学名	調査日	4月 5日	5月 3日	6月 4日	7月 2日	8月 5日	9月 2日	10月 2日	11月 4日	12月 10日
タテハチョウ科	ヒメウラナミジャノメ	<i>Ypthima argus</i>				○			○			
	ヒメジャノメ	<i>Mycalesis gotama</i>										
	クロヒカゲ	<i>Lethe diana</i>					○					
	クロコノマチョウ	<i>Neope goschkevitschii</i>								○		
	サトキマダラヒカゲ	<i>Lethe sicelis</i>			○			○	○	○		
	ヒカゲチョウ	<i>Neptis sappho intermedia</i>			○							
	コムシジ	<i>Polygonia c-aureum</i>						○		○		
	ホシミスジ	<i>Neptis pryri</i>				○						
	キタテハ	<i>Polygonia c-aureum</i>				○					○	
	アカタテハ	<i>Vanessa indica</i>									○	
	ゴマダラチョウ	<i>Hestina persimilis japonica</i>										△
	ツマグロヒョウモン	<i>Argyreus hyperbius hyperbius</i>					○			○		
	テングチョウ	<i>Libythea celtis celtoides</i>		○							○	
	ウラギンシジミ	<i>Curetis acuta paracuta</i>								○	○	
シジミチョウ科	ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus ladonides</i>				○	○					
	ヤマトシジミ	<i>Zizeeria maha argia</i>			○					○	○	
	ウラナミシジミ	<i>Lampides boeticus</i>		○				○	○	○	○	
	ツバメシジミ	<i>Everes argiades hellotia</i>					○			○	○	
	ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas daimio</i>			○						○	
	イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata guttata</i>							○	○		
セセリチョウ科	チャバネセセリ	<i>Pelopidas mathias</i>							○		○	
	ダイミョウセセリ	<i>Daimio tethys</i>							○			

ガ類で最もよく見かけたのはアベリアで吸蜜するホシホウジャク(2023年6月、7月、8月、2024年8月、11月)とウンモンクチバ属であり、ウンモンクチバ属に関しては、オオウンモンクチバの幼虫がチガヤ上で確認されている(2023年10月、2024年9月)。ウメエダシャクは2023年6月に1個体が確認されただけである。以下、成虫と幼虫の画像を3種ずつ紹介する(図10~15)。



図10. プライヤエグリシャチホコ
2023. 4. 27



図11. シロテンエダシャク
2024. 2. 2



図12. ナカトビフトメイガ
2024. 7. 2



図13. ヒメモンシロドクガ幼虫
2023. 5. 8



図14. アカヒゲドクガ幼虫
2023. 7. 6



図15. キノコトウ幼虫
2024. 4. 5

ハチ目

ハバチ類では、アカスジチュウレンジ（2023 年 4 月、6 月）、ルリチュウレンジ（2024 年 4 月）、ウツギハバチ（2023 年 5 月）、ニホンカブラハバチ（2023 年 6 月）の 4 種が確認された。

スズメバチ科では、オオスズメバチが両年とも 3 調査日、セグロアシナガバチが 2023 年に 3 調査日、2024 年に 4 調査日で確認されたほか、ヒメスズメバチが 2023 年 6 月、ホソアシナガバチが 2024 年 10 月に確認された。

ミツバチ科では、2023 年 6 月にコナラの樹洞に作られたニホンミツバチの大きな巣において多くのワーカーが出入りする様子を動画撮影できた。また、クマバチとタイワンタケクマバチに関しては、2023 年には両種とも 3 調査日、2024 年には 4 調査日と 2 調査日で確認され、両種ともアベリアでよく吸蜜していた（図 16、タイワンタケクマバチの確認日：2023 年 7 月、8 月、9 月、2024 年 5 月、9 月）。その他の出現種は 2024 年 5 月のコマルハナバチ（女王）である。

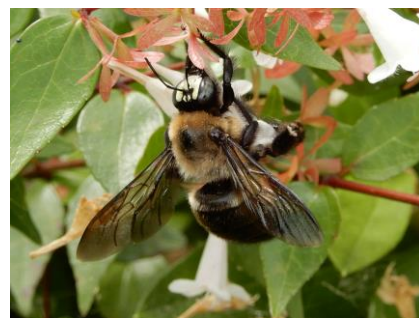


図 16. タイワンタケクマバチ
2023. 8. 3

その他の目

ゴキブリ目に関しては、モリチャバネゴキブリとヒメクロゴキブリの 2 種、およびゴキブリ科の一種の脱皮殻が確認された。特にヒメクロゴキブリの幼虫はケヤキの樹皮の隙間に多く見られ、2023 年の 1 月から 3 月にかけて、および 2024 年の 1 月と 2 月に冬越ししている幼虫が確認され、時に小集団を形成していた（調査日に関しては、コウチュウ目の項を参照）。またハサミムシ目では、2023 年 4 月にヒゲジロハサミムシの幼虫だけが確認された。

チャタテムシ目では、2023 年 10 月にクロミャクチャタテ（図 17）の集団が確認された。自身が継続的に調査をしてきたせんごくの杜でも和泉市信太山においても、同年の秋に初めてクロミャクチャタテが確認され、単なる偶然の一致とは考えにくい。



図 17. クロミャクチャタテ
2023. 10. 5

アミメカゲロウ目では、2023 年 6 月にヤマトクサカゲロウが確認され、2024 年 6 月にはタテスジカマキリモドキ（図 18）という外来種が確認された。後者は越澤・中峰（2025）によって東海地方と近畿地方で報告されている学名未定の外来種であり、本調査地の記録もその論文に掲載された。



図 18. タテスジカマキリモドキ
2024. 6. 4

シリアゲムシ目ではヤマトシリアゲだけが 2023 年 6 月と 10 月、および 2024 年 6 月に確認されている。ハエ目ではハルササハマダラミバエが両年の 4 月に、キアシキンシギアブが 2023

年 5 月に確認された。ハルササハマダラミバエは、他の生息場所で見かける機会が減っているように思うが、定量的なデータをとっているわけではない。

調査日以外に確認された昆虫

上記の月 1 回の調査日以外にも本調査地を訪れる機会があり、その際に確認された昆虫の記録を書き留めておく。大阪府レッドリスト種（準絶滅危惧）としては、2023 年 11 月 19 日にアキアカネ（図 19）が確認された。また、同年 10 月 30 日にヒメアカネの交尾ペアを撮影した（図 20）。

カマキリ目に関して、先に述べたとおり調査日にはオオカマキリとハラビロカマキリの 2 種が確認されたが、2024 年 5 月 20 日にサツマヒメカマキリの幼虫（図 21）が確認された。



図 19. アキアカネ
2023. 11. 19



図 20. ヒメアカネ
2023. 10. 30



図 21. サツマヒメカマキリ幼虫
2024. 5. 20

アキアカネとサツマヒメカマキリの 2 種のほかにも、2024 年 4 月 26 日にはキアシドクガの幼虫とコガタスズメバチ、同年 5 月 20 日にはヒゲナガルリマルノミハムシ、同年 6 月 24 日にはヒノキカワモグリガ、同年 8 月 24 日にはフタスジツツリガ、同年 10 月 28 日にはアカヒメヘリカメムシ、シバツトガ、ウスイロキンノメイガの幼虫（図 22）が調査日以外に確認された。



図 22. ウスイロキンノメイガ幼虫
2024. 10. 28

謝辞

昆虫および植物に関して有用な助言をいただいた貝塚市立自然遊学館の天満和久氏と湯浅幸子氏に謝意を表する。

引用文献・参考文献

岩崎 拓 (2024) 千石荘の昆虫 (2018-2021 年度調査). 貝塚の自然第 23 号 : 12-38.

大阪府 (2014) 『大阪府レッドリスト 2014』, 48pp.

越澤拓美・中峰 空 (2025) 東海・近畿地方で確認された外来種タテスジカマキリモドキ (新称) (アミメカゲロウ目 : カマキリモドキ科). 東海自然誌 (18) : 93-99.